

サ

ロ

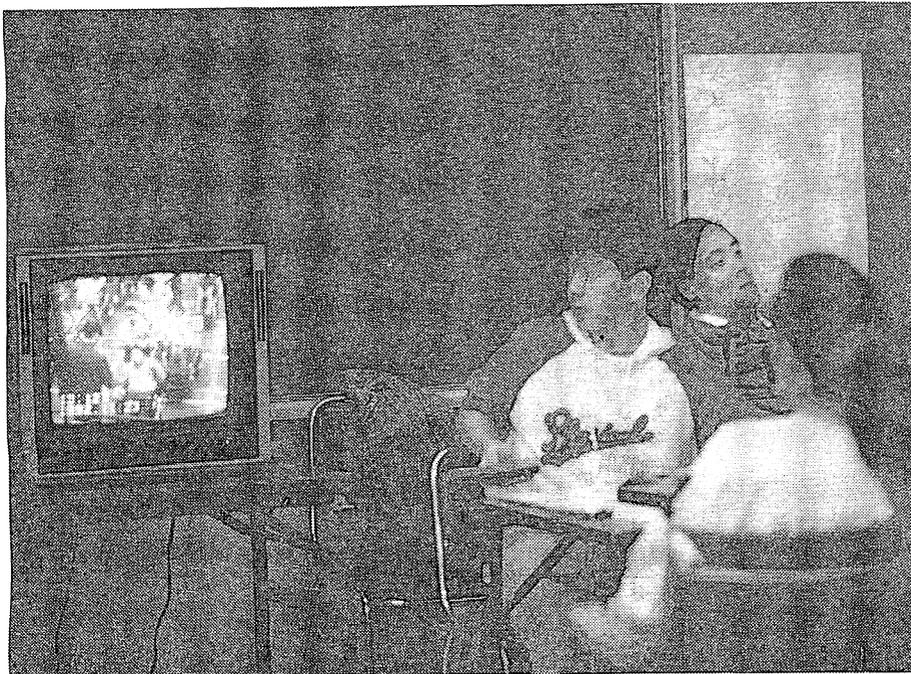
ン

あべの

NO 84

出合い ふれあい 助け合い

サッカー サッカー サッカー



サロン・あべの五月の出合い



毎月十二回(二・四・六・八の日)発行 一九九一年九月三日第三種郵便物認可

平成五年五月十五日(土)、育徳コミュニティセンター二階研修室において、サロン・あべの五月の出合いを開催した。この日は、大阪市立身体障害者スポーツセンター(大阪市住吉区长居公園内)で、電動車椅子サッカークラブ「大阪ローリングタートル」の代表をしておられる土井俊次氏に、そのスポーツの歴史や楽しさについて、試合や練習風景のビデオを見ながらお話をいただいた。

スポーツの中でもサッカーといえは、瞬発力や速攻性が求められる、行動範囲の広い活動的なものと考えられているが、この電動車椅子サッカーは、重度障害者でも電動車椅子を動かせれば(手・足・顎等で...)、誰にも出来る。言い換えれば、健常者でも電動車椅子に乗れば、お互いにハンディを持たないでこのサッカーに参加出来るともいえる。

この電動車椅子サッカーは、十一年前、土井氏が長居の身体障害者スポーツセンターで、風船ボールを電動車椅子で転がして遊んでいるのをセンターの指導員が見て、スポーツハサッカーVに考えつかれ、同好会が生まれクラブへと発展してきた。

現在、大阪ローリングタートルには「イーグルズ」「ミラクルパワーズ」「けったローズ」「トライアルズ」「ブルースターズ」の五チームがあり、男女混合で一チームに七、八名がクラブ員として所属している。各チームにはそれぞれにキャプテンがいる。

練習は、毎日曜日長居・身体障害者スポーツセンターの体育館で、午後三〜五時(変更もあり)にバスケットのコートを使われて行われている。

電動車椅子の足置き金具に自動車のタイヤを、横半分(半円)に切った物をカバーとして取り付けられている。この場でボールを転がしたり、突いたりしながらゴールに運ぶ。

初めの頃のボールは、ビーチボールに革を被せた物、その後ゴム製のバレーボールを革包みにした。現在は、電動車椅子サッカー用のボール(直径五〇センチ程ある白黒のサッカーボール模様)を使用している。

ルールの基本は、一般のサッカーと変わらない。

二年前より、名古屋のAMFCエスカルゴと大阪ローリングタートルが年二回の定期大会試合を行っており、大阪勢は、四対一で勝っている。

サッカーを通して、スポーツ



土井俊次氏

電動車椅子サッカー十年の歩み

年・月	出来事
一九八二・	電動車椅子サッカー誕生！ ボール＝バロン(巨大) ↓ビーチボール(So. 巨大) 使用
一九八三・	電動車椅子サッカー同好会結成
一九八四・	電動車椅子サッカー同好会内でチーム結成、リーグ戦開始 ボール＝ゴム製バレーボールに皮カバーを付けて使用(So. 巨大)
一九八五・	同好会のユニホーム誕生
一九八八・	新チーム増加(四チーム対抗リーグ戦となる) 日本福祉大学の学生研修訪問(AMFCエスカルゴ誕生のきっかけとなる)
一九八九・	審判ボランティア登場
一九九〇・	テレビ大阪で紹介 ゴムチューブ入り新ボール
一九九一・	AMFCエスカルゴと初交流試合(大阪選抜チーム四対一で勝利) 同好会を改め「電動車椅子サッカークラブ・ローリングタートル」として新発足(大阪市身体障害者スポーツセンター所属のクラブとなる) ボール＝モルテン製サッカーボール(So. 巨大) 第二回交流定期大会(於、大阪身体障害者スポーツセンター、三対〇でAMFCの勝利)
一九九二・	メンバー増加により、五チームに再編成 第三回定期大会(於、名古屋スポーツセンター)対〇、PK戦で大阪の勝利 ボール＝モルテン製(So. 巨大) 第四回定期大会(於、大阪身体障害者スポーツセンター、五対一で大阪の勝利)
一九九三・	電動車椅子サッカー十周年記念行事、予定 第五回定期大会(於、名古屋福祉スポーツセンター)、予定

一九九三年四月三〇日現在

の楽しさを知っただけでなく、人との交流、社会との繋がり等幅広い人間形成の場ともなっていると言われる。

この日参加されたメンバーの方は、クラブ名が入ったお揃いのトレーナー姿で、団結の絆の固さを見せてくれた。

今のところ電動車椅子サッカークラブは、大阪と名古屋にしかないが（外国ではカナダにある）、このスポーツがより多くの人達に知ってもらおうと共に、スポーツとしての輪も広がり、多くの人達が楽しめることを願うとともに、六月十三日の名古屋大会の成功を祈念して、参加者一同三々七拍子で、大きなエールを贈った。

参加者 〓 三〇名
司 会 〓 加賀谷 正
まとめ 〓 富田 慶子

ナイスキック

5月のテーマに添って、各々が抱いている想いや夢を書いていただきました。



自立に向って・・・田中朱美



我が子康之が誕生したのは、モントリオルオリンピックの話が街に流れる一九七六年（昭和五一年）二月二十九日午後九時四八分…。数々の難を乗り越え、助かったのが不思議と医師より…生後三日目、脳性マヒの疑い有りと診断。当時としては、早期発見、早期治療を旨しましたが、重度肢体不自由、言語障害と重いハンディーを受ける身となりました。

この子に将来自立をと考え、残る機能を生かそうと中学二年生の頃、電動車椅子（足用スイッチ）の練習を始めました。その練習中に大先輩の土井さんを紹介していただきました。この機会が、電動車椅子サッカーとの出会いになりました。そして、母子分離、自立への一歩となりました。

親が元気な内に子供の将来を考え、その道をつけてやるのが親の勤めだと思います。

この子が将来、重い障害を乗り越え、自分の可能性を最大限に活用し、難しい地域社会の中で、一人の人間として、心まで障害者にならないよう、強く明るく、人を思いやる心と、感謝の気持ちを忘れず、出会いを大切に、人生の一ページを綴って欲しいと願っています。

現在は高等部三年で、進路選択を目前に控え施設見学、現場実習など、自立に向けて親子共に頑張っています。



隔世の感

昔の蹴球少年

いよいよ五月十五日からサッカーJリーグが始まりました。

小学校四〜六年生の担任だった先生がサッカー大好き人間(選手だったように思う)だったからでしょうか、体操の時間には円くなって蹴る練習を授業に取り入れていたの思い出します。そうです、キックとはいわず蹴るでした。戦争中から戦争直後

は蹴球と呼ばれていたもので、それがまだ完全にサッカーに変わっていない頃でした。

その先生が試合に出場する日には、中もずへ応援にも行きました。放課後は野球をするか、それに飽きると、野球に使っていたボールを蹴って、暮れるまで遊んでいました。授業ではそれなりのボールがあった蹴球をしていました。が、帰ってからの蹴球はボールの入手が大変で、比較的似ているドッジ・ボールのボールを持っている子も非常に稀で、やむなく似ても似つかぬ野



球用のボールを蹴っていたというわけ。といえはいかにも盛んだったように聞えますが、なかなかどうして、その頃の蹴球人口は野球のそれにくらべればまだまだの時代でした。

隔世の感あり、です。一八七三年日本にサッカーが伝わって二二〇年、プロのリーグが成り立つまでに愛好者が増え、支持者の裾野も広がり、層も厚くなったのです。ますますサポーターの吹くラッパもホーンが上ることでしょう。



電動サッカークラブ

山本篤江

電動サッカークラブには土井君を通じて6年前に初めて参加しました。重度の障害者にもやっとスポーツが楽しめる機会ができて嬉しかった。実際に自分の身体を動かすわけではないのですが、車イスの操作によって車イスが自分の足になって身体になって息は切れるし、汗は吹き出て来ます。

サッカーを通じて国体にも参加できませんでした。が、今までたくさんさんの重度のひとがスポーツをやれないでいたことを改めて感じました。

今は大阪と名古屋しか、チームはないと聞いていますが、どんどん全国にも広がって欲しいと思います。



サッカーに参加して 上田 敏

私達の電動車椅子サッカーも、早いもので今年で十一年目を、迎える事になりました。

私が電動車椅子サッカーに出会ったのは、一九八三年(昭和五八年)でした。

当時の私は、養護学校の高等部を卒業して三年目で、自宅でアニメーションの彩色の仕事をしたが、重度障害者にとってお決まりの、在宅という形を取らざるをえませんでした。

そんなある日、友人から、「長居のスポーツセンターにおいてよ！友達を紹介する

おもろい 姉ちゃん

田 淵 美登利

仕事で寝たら減俸

八二号でもお話しした「はんぶるん」のH君。

先日の午後、大変御機嫌が悪い。心配した彼の作業科の職員が、色々尋ねたところ、原因は私。

昼休みに事務室の机でうたた寝をしていた私を見た彼は、

「事務室にいる」仕事」

「仕事中に寝る」お給料がもらえない

「お給料がもらえない」私が困る」

から」と電話があり、行ってみる事にしました。そこで、現部長の土井さんと知り合い、「電動車椅子でサッカーをやってみないか!」と、誘われたのがサッカーとの出会いの始まりでした。

参加して最初に思ったのは、「重度障害者でも電動車椅子を使えば、こんなに楽

と考え、私を起すことも出来ず、一人悩んでいたらしい。

周りの職員が「休憩中はいいんだよ」と説得したそうですが、彼に通じたかどうかは疑問。

以来、彼の目につくところでの昼寝はやめました。



しく、しかもエキサイティングなスポーツがあるんだ!」と感動し、当時、家に閉じこもりがちだった私にとって、スポーツをして心地良い汗を流す事が、こんなに素晴らしいものなのかと思ったのを、今でも覚えています。

それ以来、サッカーのとりこになり、得



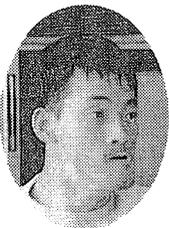
オーレ!

- 平安末期後
 1873年 蹴鞠が盛んになる。
 1921年 日本にサッカーが伝わる。
 1936年 日本サッカー協会設立。
 1936年 ベルリンオリンピック出場。
 1956年 メルボルンオリンピック出場。
 1964年 東京オリンピック出場、ベスト8。
 1965年 第1回日本サッカーリーグ開幕。
 1968年 メキシコオリンピック出場、銅メダル獲得。
 1982年 電動車イスサッカー大阪に誕生。
 1992年 Jリーグ前哨戦ナビスコカップ杯開催。
 アジアカップ初優勝。
 1993年 '94年ワールドカップアジア地区1次予選突破。
 1993年 5月15日日本プロサッカーリーグ開幕。
 近未来 電動車イスサッカーJリーグ開幕。

電動車イスサッカーが誕生して10年。その10年のエナジーを声援と拍手に変えて、私は力の限り応援したい。私の熱いラブコールがとてつもない夢をかなえてくれるように… (I)

点王も何度か取る事が出来ました。キャンプや会長(クラブになる前は同好会)をした事もあり、リーダーとして人の上に立つ事の難しさを、サッカーを通して勉強させていただきました。妻の久美子とも、サッカーで知り合い結婚する事が出来ました。スポーツに縁の無い重度障害者でも、自分自身をアピール出来るスポーツ、それが電動車椅子サッカーだと私は思います。

私にとって電動車椅子サッカーは、スポーツの楽しさ、人とのかわり方、結婚、自立まで、考えさせてくれた素晴らしい場所でした。この十一年間、サッカーと共に成長してきた様な気がします。これからも妻と二人で、電動車椅子サッカーと共に、もっともっと、自分自身を成長させていきたいと思っています。



エースストライカー

Volunteer Center

23

エピローグ

ボランティア活動をめぐる動きのひとつとして「企業ボランティア」への関心が非常に高まってきたことがあげられる。所詮企業のイメージアップのためのPRに過ぎないのではないかとといった批判もあり、実際、それが大きな要素になっていることは事実であろうが、ボランティア活動を通じて社員がさまざまな問題に触れ、個人として、また、企業での仕事を通じて少しでもその問題を踏まえた取り組みができるきっかけとなる可能性は少なくない。

また、こうした企業ボランティアの動き

の影響もあり、ボランティア活動に対する市民の捉え方も変化してきているようだ。福祉と関係のないマスコミにもよく取り上げられるようになり、大阪ボランティア協会でも活動希望者が急増して「第三次ボランティアブーム」といった状況がみられる。そうである(月刊ボランティアより)。困っている人に何かをしてあげるということよりも、新たな人間関係を創る機会として、人のためではなく自分自身のために参加するということも多く、ボランティアは変わった人、奇抜な人というイメージは変わりつつあるのだろう。ブームに終わることのないよう、ボランティア活動の表面的な部分だけでなく、活動を通じて社会を(ほんの小さな部分でも)変えていくという魅力を知ってもらうことが望まれる。



さて、卒論をもとにしたこの連載も、気がついてみると二年間にもおよんでしまった。かなりの加筆はしなければならなかったが、つい最近思いついたと思っていたところがすでに書かれていたりして、さっぱり進歩していない自分には呆れてしまった。

自分自身はというと、ボランティア活動といえるようなものは情けないことにほとんどしていない。せめてといえば、地域計画づくりに関わるといふ仕事のなかでは、できる限り突っ込んで、決められた仕様書以上の仕事をしたとは思っている。こういふのは昨年発行された岩波新書の「ボランティア」(金子郁容著)では「ボランティア・イン・スピリット(精神としてのボランティア)」といわれているが、仕事という立場でのそうした取り組みも、個人の手だけでは関わりにくい問題解決への手がかりとしては必要なものだと感じている。

(おわり)

長い間お読みくださいましてありがとうございます。また、さまざまなご意見をくださいました方々に心よりお礼申しあげます。

原田 仁

上澄みの心

数人の人に同じことをいわれた、私の文章には澄んだ心が映っているといふ。

そうかもしれない。なぜなら私は自分の心の一番澄んだ部分だけを、ここに書いていくのだから。どんなに濁った水でも、コップのなかに入れて静かに放っておけば、いちばん上の方に澄んだ部分があらわれる。そういう上澄み(うわず)みの僅かな心を、平たいスプーンで削るようにして集め、私は文章にしているのである。

私の文章を読んで、きつと人間のドロドロした部分を知らないで育ってきたのだろうと言われたこともある。澄んだ心は人間の醜い部分を知らないようにも見えるのだろう。

しかし、私は私自身の醜いドロドロとした心を、ここに書かなければならないのだろうか。そのようなものを表現して何になるのか。それは小説という形であれば可能だろう。自分の醜い

部分を別の人物の動きとして突き放した言葉で描いていく。そうしてこそ、私は醜いが、その醜い部分を許してはいないのだということ明らかにできる。

だが、随筆の形で、つまり私が私自身を語るといふ形で自分の醜さや汚さを表現すれば、それは懺悔(ざんげ)になるか、それとも醜さや汚らしさそのまま認めてほしいという際限のない甘えた言葉になる。懺悔は難しく、甘えた言葉は読んでいても不愉快だ。そのような甘えを自分に許さないとしても、かといって懺悔する力強さもないときは、醜さと弱さでいつぱいになった心で私は何を書けるだろう。

いつもならば、それでも汚れた弱い心を静かな器のなかに入れて、しばらくは放っておく。すると澄んだ部分上の方にわずかに膜(まく)のように現われる。その上澄みの心をすくって文章に綴るのだが、それには静けさと

時間が必要なのだ。

いまは、そのような時間も静けさも私の心にはない。私の濁った心は、上澄みの部分を浮かべることができないままに、ゆらりゆらりと揺れている。静かなときには底に沈んでいいるはずの心の排泄物が、ゆらりゆらりと渦をまいてあざ笑うように踊っているのである。

(知)

お知らせ

7月の出会い
 日時 7月17日(土)午後1時~4時
 内容 「障害者としての出発」
 —みんなに命を担がれて—
 パネラー：曾我部教子氏
そがべのりこ
 (尼崎市立若草中学校教諭)
 場所 育徳コミュニティセンター 2階
 研修室 [阿倍野区阪南町5-15-28
 車椅子トイレ・スロープあり]
 会費 なし
 申し込み・問い合わせ先
 ☎06-691-1028 (富田慶子)



ふれ愛

上平 幸雄

空の旅

⑪

施設見学の最後は、クリップドチルドレンズサイエティ・イングルウッドハウジングです。元々は身体障害児のためのリハビリテーション施設ですが、そのグループ・ホーム部門を見学しました。

グループ・ホームと言うより、少しケアをしてもらえる福祉住宅と言った方がいいかもしれません。四十ある部屋は、バス・トイレ付きの独立したものです。低所得の障害者を対象にしており、ケアは一日に二時間です。費用は、年間所得の三十%を負担します。家族とも同居でき、同居人をアテンドにすれば、その人の住居費は無料です。年限はなく、もし所得が多くなっても、負担する費用が増えるだけです。ここから仕事に行ったり、外泊も可能ということでした。

アメリカに来て、本当にあつという間に

一週間がたちました。九月一日はいよいよ最後の見学地、ディズニールランドです。

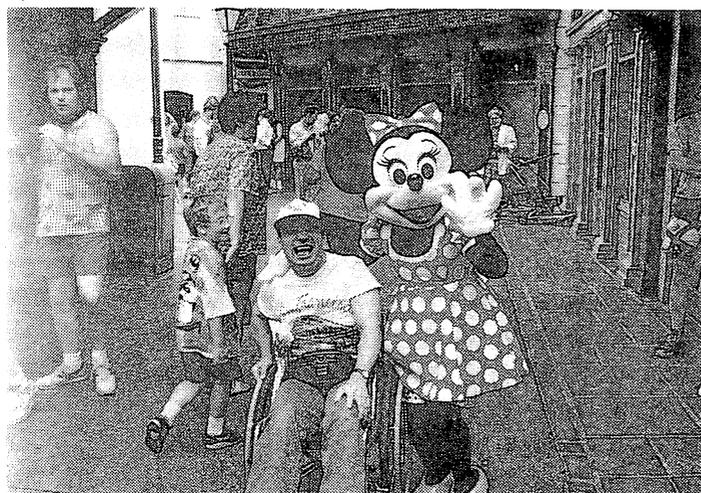
三十五歳のおじさんとしては、遊園地のようなところは少し恥ずかしくて、最初はあまり喜ばませんでした。ところが、一度乗り物に乗った後は、完全に子供に戻って、はしゃぎ回ってしまいました。

障害者は優先的に乗せてもらえるので、人気のある乗り物でも、列に並んで待つことはありません。おかげで、八種類ほどの乗り物に乗ることができました。もちろん、おみやげも物色し、ディズニールランドでの一日を存分に楽しみました。

いくら有名なディズニールランドであっても、もし乗り物に乗れなければ、その楽しさもおそらく半減したと思います。でも、心臓病などの特別な場合を除いて、介護人がいれば、障害者も乗ることができるのです。中には少し危険かなと思う乗り物もありましたが、それで断られることはありません。乗りたいんだというお客の自主性が、まず尊重されるのです。ただし、万一事故が起こった場合の責任もお客にあるということです。また、エレベーターやスロープ

などのハード面も、しっかり整ってしました。階段があるからとか、危険だからということで、最初から断られる日本とは、だいぶ違うようです。

その日本でも、東京ディズニールランドは、アメリカのものと同じ規格で造られているそうです。ぼくは、まだ行ったことがないので、運営方針もアメリカと同じなら、一度行ってみたいですね。



5



はあとがはろー!

「さろん亭」開店 テントの苦勞

富田 慶子

毎年夏になると、府立工業高校グラウンドで阿倍野区民祭りの「あべのカーニバル」が開催されています。

今年は八月八日(日)に開催されます。この「あべのカーニバル」では、グラウンドの中央の舞台で歌や踊り、音楽等が催されます。その周囲には、「なんでも市どおり(区民の参加による色々な店が並ぶ)」や官公署等(警察、消防署等)の展示・草花・特産物販売等のコーナーが並びます。

開催時間は、午後三時〜九時までとなっていますが、お客さんは一時過ぎからぞくぞくと来られます。それは、「なんでも市どおり」のバザー店がお目当てで、店出しの時から品定めをして、上手にお買い物されるのです。この「なんでも市どおり」にハサロン・あべのVは、昭和六一年の第十三回「あべのカーニバル」から、サロン活動を地域の人達に知っていただきたい、運営費を得たいという希いを持ってバザー店を出しました。店を出すには、それなりの手順(バザーの案内、品物寄贈のお願い、品物の収集と保管、値札付け、搬送)や、こまかい準備が必要ですが、それらは多くの方、例えば会場への搬送はいつも阿倍野肢体部カークラブ、品物の収集はだれとだれというふうにご協力を得られていますので、私個人としては、何の苦勞もないわけです。が、私が一番骨身にこたえましてのは、夏の日差しと暑さでした。それまで、恥ずかしながら直射日光の下で長時間過ごすという経験がなかったもので、夏の日差しがどんなものであるか、考えもしませんでした。

昭和六一年の最初の年は、石田氏がビー

チバラソルを持参されて立て、下さったのですが、小さな日陰はどこへいったのか目にもとまりませんし、風が吹くたび右に左に揺れて、とうとうたゝんでしまいました。帽子を被っていましたが、強い日差しに両腕がヒリヒリ。その時の私、どんな顔をしていたのか解りませんが、見るにみかねて連絡協議会のボランテニアをされていた小倉氏が、ボイスカウトの人といっしょに、丸太と大きなシートでにわかテントを立て、下さいました。この時の日陰の涼しかったこと。息が楽に出来て、生き返った思いがしました。いうまでもなく、両腕は初めて皮がむけました。

翌年から以後、バザー店の準備は、まずテントからと痛感しました。しかし、専門店で貸りるには高すぎて…

昭和六二年は「あべのたんぼ作業所」の協力でテントは立ちました。ところが、皮肉なことに昭和六二年八月二三日は、思いのほか涼しくて、早々にテントをたたみ夕暮れの風を楽しんでいましたら、いきなりどしゃぶりの大雨。大慌てで品物にシートを被せて、避難しました。グラウンドを横切る間に、靴の中までぐしょ濡れになり、

髪の毛先からしずくをしたたらせた、なんて初めての体験でしたので、歌でも口ずさみたい様な興奮を覚えました。グラウンドが真白になる程の雨で、この日のカーニバルはその時点で中止になりました。この雨の中、カークラブの方々も心配して駆けつけて下さったり、委員の方々のお心づかい等ご厚意がとて嬉しかったです。

第十五回目(昭和六三年八月二十八日)のテントは、大丸氏にお貸りしました。

テントを立てるといふ事は、力持ちの人手が十人は要るわけです。サロンの委員だけでは、手が足りず、カークラブの方や、それに旭さんの声かけで毎年開店準備や販売等お手伝いしていただいている文の里手話グループの人達も来て下さり、お手伝いいただきました。この年、角方さんが横断幕を縫って下さり、それに原田氏が「サロン・あべの」の字を大きく染めつけ、立派な暖簾を付けることが出来ました。

第十六回(平成一年八月十三日)の時のテントは、あべのボランティア・ビューローとお隣同士ということで、貸しテントを利用して費用も折半しました。この時、旭さんの知人からTシャツの寄贈を受

「さろん亭」のチラシ



けましたので、当日参加の人達とお揃いで着ましところ大変好評でした。翌年の第十七回(平成二年八月十九日)に、サロンのTシャツを作る事にしました。

石田夫人のデザインで、山本篤江さんから染め付けの指導を受けて、手作りのオリジナルTシャツが出来ました。この年は、岡夫妻が東京から来られて、値札付け・販

売等お手伝い下さいました。テントは、堺の大阪義肢装具センターの石原氏が貸して下さったのですが、一区画分の大きさしかなく、お隣のビューローさんは、日陰なしの状態になりました。テントの大きさの確認をとらなかつた私の落ち度で、ビューローの方々には本当に申しわけないことをしました。この年からサロンのバザー店は、「さろん亭」と屋号を付けて、原田氏のレタリングになる暖簾をかけました。

第十八回(平成三年八月四日)は、販売面積を二区画に広げ、「さろん亭」として整ったバザー店となりました。テントは、前年同様に堺の石原氏にお貸しいただきました。この年は、バザー用の品物だけでなく、おなじみ石田夫人のイラストで、オリジナルグッズ「サロンのメモ帳(一五〇円)」を販売しました。

第十九回(平成四年八月二日)目になって、ようやく貸しテント(二万円)を利用して出来るまでになりました。これで、多くの方に迷惑をおかけしなくてすむと考えますと、ホッとしました。と言いますのもカーニバル終了の九時以後でないでとグラウンドに車が入れず、その為に品物の搬出が出来

ませんでした。九時過ぎに来ると、帰るのは十時を過ぎてしまいます。善意からして下さっているとは言え、何ひとつお礼も出来ず、本当に申しわけなく思っていました。この年から私達もテントをそのまゝにして、品物のあとかたづけをして出ればよいわけで、早い帰宅が出来るようになります。



引っ越しました

上平 幸雄



以前住んでいた所から西へ五〇メートルほどの、新しく建ったばかりのマンションに引っ越しました。

全部で十二所帯の小さなマンションですが、出入り口に段差がなく、エレベーターが付いています。これでやっと車椅子のまま、部屋のままで行けるようになったのです。また、以前より広くなって、陽当たりも良くなりました。その反面、家賃はかなり高くなりましたし、細かな問題点(トイレが狭いとか、部屋の中に段があるとか)を言い出せば切りがありません。でも、四

た。

毎年、様々な人々との出会いがあり、楽しい思いをさせていただいています。その話は、後日とします。

今年の「さろん亭」も、八月八日に開店します。どうぞよろしくお願いします。

月の末に引っ越して、早くも二カ月、やはり、ここにして良かったと思っています。なにより、子供の保育所とガレージを変えずに済んだことが良かったと思います。

「サロン紙」に家を探していることを書いてから、もう随分になりますが、みんな本当に気にかけてくださっていて、つい最近も空き家の情報をいただきました。どうもありがとうございます。

ぼくもこれで、やっと本当の阿倍野区民になったような気分です。

美智子のこんな話



岸田 美智子

全身性障害者介護人派遣事業について

前回に引き続き、大阪市内の障害者を対象にしている介護制度について掲載させていただきます。この内容を読んでもらってもわかるように、地域と施設では大きな差があります。施設障害者がなぜ四八時間なのか、また内容が外出だけなのかわかりません。外出した時には、施設障害者もトイレ介護や食事介護ももちろん必要ですし、着替えなども介護が必要になってくることは当然なのです。一人でも多くの施設障害者の方もどんどんこの制度を使っていき、よりよい制度を作り上げていきたいと思えます。どんどん、使いましょね。

◆全身性障害者介護人派遣事業

(大阪市独自の制度)

- ・大阪市だけの制度で、外出介護、生活介護など、どんな介護でも利用できる。

ただし、市は単に介護料を出すだけで、市が介護者を見つけて派遣するという形はとっておらず、障害者は自分で介護者を見つけなければならぬ。(親が介護者として登録することはできない)

- ・脳性マヒなどの全身性障害者(一級のみ)しか対象にならない。

- ・当初は在宅障害者のみ対象であったが、外出サービスの成果で九一年から施設障害者も利用可能になった。しかし、施設の中で自力で介護者を見つけることはほとんど不可能で、制度利用者のほとんどは、外出サービス会員にとどまっている。



- ・介護料の対象となる 時間数、

時給、介護料は、九三年度から表のように変わった。

表の時間数は、三つのランクに分けられている。

- ①「入浴」、

- ②「外出」、

- ③「トイレ、着替え、その他」

の三つとも介護が必要な在宅障害者は月一四四時間まで利用できる。

- ・このうち二つの介護が必要な障害者は一四四時間の $\frac{2}{3}$ (九六時間)まで利用できる。

- ・一つの介護が必要な障害者は一四四時間の $\frac{1}{3}$ (四八時間)まで利用できる。施設障害者は「入浴、トイレなどは施設で実施されていて、外出のみ必要」とされ、このランクにされている。

	在宅障害者	施設障害者
時間数(月)	最大126時間が144時間に	最大42時間が48時間に
時間給	どちらも1,290円が1,330円に	
介護料(月)	最大191,520円	最大63,840円

ます。子供が大人になると、同じ家族と一緒に住むことは普通ではないのです。

ドイツでは、大変な数の独身者を見てください。年ごとにその数は増えています。

それ故、又、結婚なしにパートナーと一緒に住むことが受け入れられています。あなたの娘さんも結婚していらっしゃいますか。

今日、私たちは「イースター」と呼ぶ宗教的な祝日を祝います。すべての人が四日間、働いてはいけないのです。

私はカトリックです。ドイツでのふたつの大きな宗教のひとつです。私は信仰深い方ではないのですが、このお祝いを楽しみます。

あなたの宗教は何ですか。

そろそろこの手紙を書き終えます。

あなたと、そして私たちの手紙を訳している友達が健康でありますように。

あなたの次の手紙を待っています。

ブリギッテ

-2-

greatest religious groups in Germany. I am not a very religious person, but I enjoy the celebrations, too.
What's your religious group?
Now I will finish this letter. I hope you and your friend, who translates our letters, are in the best of health. I am waiting for your next letter.
Brigitte

井 感謝 します 井
カンパ・冊子等、ありがとうございます
た。お礼を申し上げます。
五月のカンパ

金一、〇〇〇円

水戸春子、匿名四名。

(敬称略)

〇〇 サロン・あべの紙の

朗読テープが出来ました 〇〇

山本敏子さんのご協力で、サロン・あべの紙八三号の録音テープが出来ました。

バックナンバーは三九号から、八三号の分があります。五〇号は五周年記念紙になっており、九〇分と六〇分の二本のテープに収録されています。

サロン紙朗読テープをご希望の方には、

ダビングをしますので、富田までお申し出下さい。(☎〇六〇六九一一〇二八)

ナンペイの「ひとこと&ふたこと」は休みます

ブリギッテさんからの手紙

慶子さんへ

お手紙ありがとう、そして、あなたのグループの新聞も。

ありのまゝ、私の手紙をこの新聞に載せて下さって結構ですよ。

ウンナにこのような新聞がなくてごめんなさいネ。私のような卒中の人々を助ける組織は解散しました。なぜなら、この団体は充分なお金がないからなのです。

去年依頼、私たちの卒中グループは働くことを続けようとしています。しかし、前よりもっとたくさんの方がいます。

あなたのグループも財政的な問題がありますか。

あなたの日常生活を知ることは、とても興味深いです。

ドイツの社会では見合い結婚はありません。

だから、多くの男女がひとりで暮らしてい

12.2.1993

Dear Keiko,
 Thank you very much for your letter and for the newspaper of your group. I am sorry but in China we haven't such newspaper. The organization, which helps people with apoplexy - like me - has been broken up, because the community hasn't enough money. Since last year the members of our apoplexy-group try to continue the work, but there are much more problems than before. Have your group also financial problems?

It's very interesting to hear about your daily life. In German society we haven't arranged marriages. Therefore many men and women live alone. It is also uncommon that father or mother live in the same family when children are adults. In German you find a great number of singles and the number grows every year. Therefore the German birth-rate is very low because it's very hard to grow up a child without family. In German it's also acceptable that partners live together without marriage. Have your daughter married, too?

Today we celebrate a great religious festive day, the so called "Easter". All people don't must work for four years. I am a catholic, that's one of the two

BOOKS

<サロン・あべの>の本▶

書 名	著 者	出 版 元
いのち燃やして 一筋姿縮症という恵みの中で一	志 風 忠 義	志 風 忠 義
与えて思わず (エッセー集)	岡 本 栄 一	大阪ボランティア協会
患者・家族会のつくり方と進め方	岩田泰夫・岡知史・外口玉子	川島書店
ひろがれふれあいの輪 在宅援助ボランティア体験集	大阪市ボランティアセンター	大阪市社会福祉協議会
谷は眠って (富良野塾の記録)	倉本 純	理論社
知らされない愛について (エッセー集)	岡 知史	大阪ボランティア協会
伊丹車いすガイドブック	伊丹車いすガイドブックを作る会	伊丹車いすガイドブックを作る会
現場からの発言	誕生日ありがとう 運動大阪友の会	誕生日ありがとう 運動大阪友の会
現場からの発言 (二) ちえおくれをどまらぬ人々の記録集	誕生日ありがとう 運動大阪友の会	誕生日ありがとう 運動大阪友の会
誕生日ありがとう 思い 清き心	20周年記念誌編集委員会	誕生日ありがとう 運動本部
ちえおくれの話	伊 藤 隆 二	誕生日ありがとう 運動本部
しょうがいじの話	伊 藤 隆 二	誕生日ありがとう 運動本部
障害者の人権20の課題	全国障害者問題研究会	全国障害者研究会出版部
見えないお母さん絵本を読む	岩 田 美津子	せせらぎ出版
わたしは、生活達人	ハンディキャップ・ライフ研究会編	ハンディキャップ・ライフ研究会
よい士になること (エッセー集)	岡 知史	
誰もかかなかつた福祉機器の本	ユーザーブック製作委員会	(株) ユーダー
夕やけ空のオニヤンマ	牧 口 一 二	明日書店

〇<サロン・あべの>の蔵書を多くの皆様にも読んでいただけたらと思います。

貸し出しご希望の方は、下記までお問い合わせ下さい。

〒545 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26. ☎06-691-1028. (富田慶子)

編集後記

日本プロサッカーリーグ (Jリーグ) が5月15日、東京・国際競技場で開幕した。同じ日、大阪・育徳コミュニティセンターでは、土井俊次氏が電動車イスサッカーの歴史・ルール・見どころなどを、30名のサポーターを前に熱弁を振った。原田氏の Volunteer Center は、今回で終わります。長い間、おつかれさまでした。

本紙は<100号>まであと16 (石)

編集人; サロン・あべの運営委員会・<サロン・あべの>NO.84 ['93.6.19発行] 定価¥100.

代 表 ; 上平幸雄 〒545 大阪市阿倍野区阪南町2-19-2-303. 電話06-621-4365

連絡先; 富田慶子 〒545 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26. 電話06-691-1028

表 題 ; 斉藤孝文・筆

印 刷 ; セルフ社 〒545 大阪市阿倍野区西田辺町2-2-10-101. TEL.06-691-2365.